
幻の語り――真相

知秋一葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幻の語りー真相

【コード】

N0437C

【作者名】

知秋一葉

【あらすじ】

謎の夢はようやく解けたが、問題が次々出てきた…

真相

料理はご馳走だった。

婉は心を込めて作ったからだ。

久しぶりに風と会ったので、

師父はお酒をいっぱい飲んだ。

風は

「うまい！うまい！」

と、いいながらいっぱい食べた。

婉はそれを見るだけで満足だった。

夏の深夜、

虫のすだく声も聞こえる。

寝られない風は、

外に出て師父の部屋に行った。

「師父！師父」

と、軽くノックした。

師父は酒豪だった。

かなり飲んだが、

酔わなかった。

風のノック聞こえた。

「風、何か用か？」

と聞いた。

「はい。師父！こんな時間ですみません」

「何のこと？」

「僕はよく同じ夢を見るけど…」

「不思議な戦う夢?!」

「はい！師父、あの夢を知っている？」

「うん」

と、師父はちよつと黙つて、
「もうお前を教えるべき時だ。明日の午後に、潭に來い」と言つた。

懐かしい潭！

楽しい思いをさせる処！

潭水は綺麗だつた。

昔と同じ、

自由自在に遊んでいる魚の姿も見える。

風が來た時に、

考え中の老人がいた。

静かに石の上に座つて、

頭をあげて、

青空を眺めている。

「師父！」

と、風は声をかけた

「おいで」

と、師父は風に手を振つて、

「ここに座ろう」

と言つた。

風が座ると、

師父は続いて言つた。

「風、これからの話を聞いて、

驚いても、黙つて聞いてくれ！」

「わかつた」

風は返事した。

師父はいつもの優しい顔を厳しい表情に変えて、話し始めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0437c/>

幻の語り――真相

2010年10月21日20時55分発行